

# 第1次 食の安全安心・食育推進計画の実施結果

## 第4章 食育の推進

平成25年5月27日

<判定>

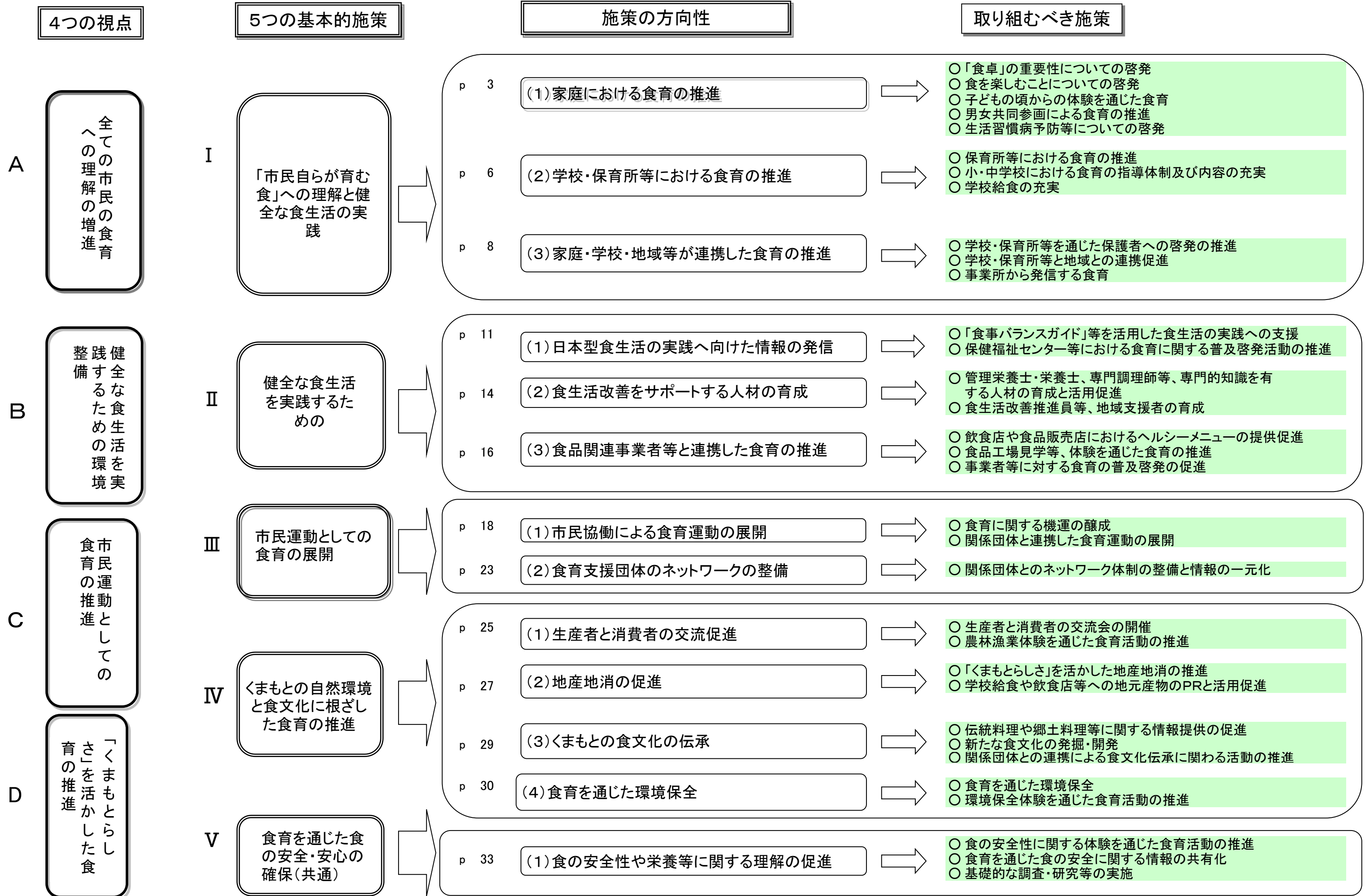
◎ 達成

○ 継続展開中で目標未達成

△ まだ取り組みをしていない

× 取り組み中止

# 第4章 「食育の推進」に関する施策の体系



## 第4章 食育の推進 《成果指標》

項目	H19年	(H22年)	H24	24年目標	H19→24	
① 食事のとき「楽しい」と感じる市民の割合	73.7%	79.2%	78.1%	80%		
② 1週間あたりの朝食の欠食率	小学5年生	1.2%	※ 0.7%	0.9%	0%	
	中学2年生	2.9%	※ 1.7%	2.0%	0%	
	20歳代男性	30.5%	31.9%	29.4%	15%	
	30歳代男性	21.9%	21.7%	29.4%	15%	
③ 食育に関する活動や行動をしている市民の割合	男性	21.2%	21.8%	18.2%	25%	
	女性	35.0%	33.0%	32.2%	45%	
④ 「内臓脂肪症候群」を認知している市民の割合	20歳以上	76.6%	81.3%	81.9%	85%	
⑤ 肥満度20%以上の児童の割合	小学生	7.5%	7.3%	6.8%	7.0%	
	中学生	9.1%	7.7%	7.7%	7.5%	
⑥ 保育所における食育に関する計画の策定割合	公立	40%	※ 100%	* 100%	100%	
	私立	16.7%	70%	91%	100%	
⑦ 幼稚園における食育に関する計画の策定割合	公立	0%	※ 100%	100%	100%	
	私立		33%	80%	80%	
⑧ 小・中学校における食育に関する計画の策定割合	小学校	100%	100%	100%	100%	
	中学校	100%	100%	100%	100%	
⑨ 親子料理教室等健康づくり活動へ参加したことがある市民の割合		22.6%	20.4%	19.4%	35%	
⑩ 食事バランスガイドを参考にした食生活を実践する市民の割合	20歳以上	27.1%	27.9%	29.1%	40%	
⑪ 日本型食生活を実践している市民の割合		81.5%	78.8%	80.4%	85%	
⑫ 食育に関する活動や行動をしている市民の割合		29.3%	28.0%	26.0%	40%	
⑬ 食育推進に関するボランティア数		560人	1,101人	1,208人	1,250人	
⑭ 飲食店で栄養成分表示を見たことがある市民の割合		56.3%	56.9%	54.3%	65%	
⑮ 食育に関心がある市民の割合	20歳以上	76.0%	75.6%	73.4%	90%	
⑯ 食生活面で「くまもとらしさ」を感じたことのある市民の割合		58.0%	51.7%	52.9%	65%	
⑰ 生産者と消費者が近く交流しやすいと感じている市民の割合		24.5%	29.6%	24.5%	30%	
⑱ 学校農園や休耕田等を活用した栽培活動を実施している小・中学校の割合	小学校	98%	100%	* 100%	100%	
	中学校	54.1%	97.4%	100%	100%	
⑲ 「地産地消」を認知している市民の割合		57.9%	68.2%	69.9%	65%	
⑳ 学校給食における地元産物を使用する割合		28品目	39品目	39品目	43品目	
㉑ 家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合		63.9%	54.9%	49.2%	70%	
㉒ 市民1人1日当たりのごみ排出量		1,215g	※ 1,037g	* 976g	(22年) 1,088g	
㉓ ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけをしている市民の割合		67.0%	69.1%	69.9%	75%	
㉔ バイオマスを知っている市民の割合		23.0%	26.2%	34.4%	30%	
㉕ 熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合		65.7%	80.8%	80.8%	85%	

※H21度実績 \* H23度実績

I 「市民自らが育む食」への理解と健全な食生活の実践

1) 家庭における食育の推進

【成果指標】

	H19(直近年)	H20	H22	H24	H24(目標)
(1) 食事のとき「楽しい」と感じる市民の割合	73.7%	80.0%	79.2%	78.1%	80%
(2) 1週間あたりの朝食の欠食率	小学5年生 1.2%(H18) *	0.7%	0.7%	0.9% *	0%
	中学2年生 2.9%(H18) *	2.0%	1.7%	2.0% *	0%
	20歳代男性 30.5%	27.7%	31.9%	29.4%	15%
	30歳代男性 21.9%	23.0%	21.7%	29.4%	15%
(3) 食育に関する活動や行動をしている市民の割合(男女)	男性 21.2%	24.4%	21.8%	18.2%	25%
	女性 35.0%	35.3%	33.0%	32.2%	45%
(4) メタボリックシンドローム「内臓脂肪症候群」を認知している市民の割合	20歳以上 76.6%	81.0%	81.3%	81.9%	85%
(5) 肥満度20%以上の児童の割合	小学生 7.5%	7.9%	7.3%	6.8% *	7.0%
	中学生 9.1%	8.2%	7.7%	7.7% *	7.5%

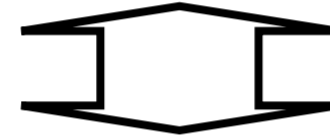
【取り組むべき施策】

- ① 「食卓」の重要性についての啓発
- ② 食を楽しむことについての啓発
- ③ 子どもの頃からの体験を通じた食育
- ④ 男女協同参画による食育の推進
- ⑤ 生活習慣病予防等についての啓発

\* H19実績は、小学5年生 0.8%、中学2年生2.0%

\* H23年度実績

【具体的な取り組み(行政)】



取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証
ひごっこすくすくカレンダー ※H24より「ひごっこすくすくマップ(携帯版)」へ変更	子ども支援課	3歳児の保護者を対象にした食生活や読書等の生活習慣の大切さを啓発するカレンダータイプのガイドブックを作成配布。	配布数	部	—	9,000部	9,000部	9,000部	9,000部	—	9000部	○	各相談連絡先を掲載し、「朝食を食べる」等の生活習慣の大切さを啓発する携帯型ガイドブックを作成配布。	継続実施
家庭教育セミナー	生涯学習推進課	思春期の子ども保護者によるグループ等の学習会に講師を派遣し、家庭でのしつけ等についての学習機会を提供。	食育をテーマとした学習会への参加者数	人	—	0回 0人	1回 67人	0回 0人	0回 0人	—	0回 0人	○	思春期の子ども保護者によるグループ等の学習会に講師を派遣し、家庭でのしつけ等についての学習機会を提供。	継続実施
年齢別連続育児講座(0,1歳コース)	子ども支援課 各区役所保健子ども課	年(月)齢毎の発達段階に沿った「食育の進め方」を栄養士により講話。	—	—	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	0歳児コース4回、1歳児コース2回実施(OH-えんタイムと同一のものである)	継続実施
乳幼児ママパパ教室	子ども支援課	保育所、幼稚園、地域の子育てグループ等の学習会へ講師を派遣し、保護者等に家庭や両親の在り方、子どもの心身の成長やしつけ等、家庭教育についての学習機会を提供。	学習会への参加者数	人	—	10,211人	10,178人	8,781人	8,576人	—	9,261人	○	保育所、幼稚園、地域の子育てグループ等の学習会へ講師を派遣し、保護者等に家庭や両親の在り方、子どもの心身の成長やしつけ等、家庭教育についての学習機会を提供。	継続実施
プレママ・パパ教室(両親学級)	子ども支援課	妊婦を対象に保育体験を行い離乳食の試食を行う。	—	—	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	今年度は土曜日開催の為、参加が多かった。離乳食体験を行わず先輩パパママとの懇談会を行う	継続実施

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等				
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24年度目標	H24実績	判定 ◎○ △×	H24年度業務内容等	事業検証	
介護予防普及啓発事業	高齢介護福祉課 各区役所福祉課	各校区で実施されている、「ふれあいサロン」での食生活改善、低栄養予防などについての健康教育を依頼により実施。講演会等も開催。	実施回数	回	継続実施	1,332回	852回	700回	700回	700回	継続実施	180回	○	講演会や介護予防教室等を開催し、介護予防(栄養改善)に関する知識の普及・啓発活動を実施。 ・講演会12回 ・介護予防教室81回 ・相談会等38回 ・イベント49回	継続実施
地域介護予防活動支援事業	高齢介護福祉課 各区役所福祉課	食生活改善推進員、8020推進員、民生委員等を対象に、地域で高齢者の健康づくりを支援するため、講演会等を開催。介護予防サポーター事業実施。	実施回数	回	継続実施	457回	4,400回	4072回	4,072回	4,072回	継続実施	2,069回	○	介護予防に資するボランティアとなる「介護予防サポーター」養成講座を開催。(全7回・28名養成) 地域活動組織に対し、保健師等を派遣し、健康教育や健康相談を実施。(2,062回)	継続実施
精神障がい者サロン、当事者勉強会	障がい保健福祉課 福祉課	精神障がい者サロン、当事者勉強会の調理実習、会食等の際、食について考える。	実施回数	回	—				調理実習13回/年 「メタボ対策」講話1回/年		調理実習13回/年 調理実習12回/年	継続実施	集計中		
乳幼児経過観察健診	子ども支援課 各区役所保健子ども課	子どもの発育・発達状況に応じた指導を行う。	受診率	受診率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	集計中	◎	子どもの発育・発達状況に応じた指導を行う。	継続実施
妊婦・乳児健康診査	子ども支援課	委託医療機関において妊婦・乳児の健康診査を行い、必要に応じて栄養指導等を行う。	受診率	受診率	妊婦健診95.9% 乳児健診84.8%	妊婦健診95.1% 乳児健診95.2%	妊婦健診98.7% 乳児健診95.7%	妊婦健診97.6% 乳児健診96.1%	妊婦健診98.7% 乳児健診97.5%		100%	集計中	○	委託医療機関において妊婦・乳児の健康診査を行い、必要に応じて栄養指導等を行う。	継続実施
妊婦一般健康診査事後指導	子ども支援課 各区役所保健子ども課	委託健診を実施し、医師の指示により健診後のフォローとして栄養指導を行う。	相談件数	指導率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	集計中	◎	委託健診を実施し、医師の指示により健診後のフォローとして栄養指導を行う。	継続実施
3・7か月健康診査事後指導	子ども支援課 各区役所保健子ども課	委託健診を実施し、医師の指示により健診後のフォローとして栄養指導を行う。	相談件数	指導率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	集計中	◎	委託健診を実施し、医師の指示により健診後のフォローとして栄養指導を行う。	継続実施
1歳6か月児健康診査	子ども支援課 各区役所保健子ども課	幼児期の食生活について指導を行い、手作りおやつを試食を行う。	受診率	受診率	96%	96.0%	94.6%	95.7%	96.4%	96.4%	100%	集計中	○	幼児期の食生活について指導を行い、手作りおやつを試食を行う。	継続実施
3歳児健康診査	子ども支援課 各区役所保健子ども課	幼児期の食生活について指導を実施	受診率	受診率	94%	93.7%	94.0%	94.8%	96.3%	96.3%	100%	集計中	○	幼児期の食生活について指導を実施	継続実施
保育所・給食体験	子ども支援課 子育て支援センター	素材を大切に食材の選び方や楽しく食べる方法を親子での保育体験を通して、同年齢の子どもへの給食見学や試食により学習してもらう。	—	—	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	本荘保育園と連携、毎月 離乳食体験、幼児食体験実施	継続実施

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証
小児生活習慣病予防検診	健康教育課	小児期の肥満に早期に対応し、小児生活習慣病に関する意識の高揚を図るため、小学4年生の肥満度20%以上の児童に対して、検診と保護者への指導を実施している。	肥満度20%以上の児童の割合 ★成果指標	%		小学生 7.9 中学生 8.3	小学生 7.31 中学生 7.70	小学生 7.5 中学生 8.0	小学生 6.8 中学生 7.7	小学生 7.0 中学生 7.5	小学生 6.8 中学生 8.1	○	対象人数 650名 受診者 328名 受診率 50.5%	継続実施
「ひご野菜」を使った家庭料理の調理実習会 <平成22年度新規>	農業政策課 各区役所 農業振興課	ひご野菜をはじめとした地産野菜の消費拡大を図るため、レシピを開発。食生活改善推進員と協力し、家庭への普及を図る。	-	-	-	-	-	栄養士対象 2回 32人 食生活改善推進員対象 6回 190人	-	-	-	○	ひご野菜普及については、行政主導から民間レベルの活動に広がりを見せているため、民間が行う取り組みを支援していくと共に、各種イベントでのPRや、くまもと農商工連携サイトを活用した認知度向上を図った。	継続実施

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称		H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
保健事業における健康づくり支援	熊本県総合保健センター	①特定保健指導(積極的支援及び動機付け支援) ②健康相談	①積極的支援 44件 動機付け支援 145件 ②2件	1、①の継続と実施数の維持 2、②の継続 3、セミナー予定
乳幼児と保護者対象「むし歯予防講座」	熊本県歯科衛生士会	「むし歯予防は食育から」～飲食物の食べ方、飲ませ方でむし歯は減らせます～ 講話と仕上げみがき実践 対象者:乳幼児の保護者	平成14年7月4日(木)11時～12時 場所:子ども文化会館 対象者:乳幼児18人、保護者18人	継続実施

I 「市民自らが育む食」への理解と健全な食生活の実践

2) 学校・保育所等における食育の推進 ～経験から学ぶ食の大切さ～

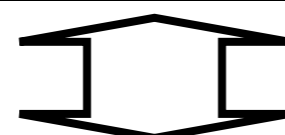
【成果指標】

	H19	H20	H22	H24	H24(目標)
(6) 保育所における食育に関する計画の策定割合	(H19)公立 40.0% 私立 16.7%	100% 66%	100% 70%	100% 100%	100% 100%
(7) 幼稚園における食育に関する計画の策定割合	(H19)公立 0% 私立 —	0% —	100% 33.0%	100% (集計中)	100% 80%
(8) 小・中学校における食育に関する計画の策定割合	(H19)小学校 100% 中学校 100%	100% 100%	100% 100%	100% 100%	100% 100%

【取り組むべき施策】

- ① 保育所等における食育の推進
- ② 小・中学校における食育の指導体制及び内容の充実
- ③ 学校給食の充実

【具体的な取り組み(行政)】



取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証
保育所での体験型食育	保育幼稚園課	園庭などで稲や野菜の栽培・収穫、日常の献立における調理実習や食生活改善推進員とのクッキング等を実施。	—	実施園数	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	園庭などで稲や野菜の栽培・収穫など	継続実施
保育所給食における給食実物等の展示	保育幼稚園課	家庭に日々の給食内容を知らせるとともに、食べ物について、園児と保護者との会話を促す。	実施率★成果指標	実施率%	公立 100% 私立 53%	100% 66%	100% 70%	100% 71%	100% 75%	100% 80%	調査中		研修会で給食実物展示による食育の目標や効果について説明した	継続実施
保育所における食育に関する計画の策定	保育幼稚園課	保育所における食育推進を図るための具体的な計画を作成する。	策定率★成果指標	策定率%	公立 40.0% 私立 16.7%	100% 66%	100% 70%	100% 86%	100% 91%	100% 100%	調査中		研修会で食育の計画策定について説明した	継続実施
幼稚園における食育に関する計画の策定	健康教育課	公立幼稚園における食育推進を図るための具体的な計画を作成する。	策定率★成果指標	策定率%	公立 0 私立 0	0 0	100% —	100% 33%	100% 80%	100% 80%	◎ 調査中			継続実施
小・中学校における食育に関する計画の策定	健康教育課	具体的な計画を作成し、学校における食育推進を図るため、各校における食育の推進体制を作成。	策定率★成果指標	策定率%	小学校 100% 中学校 100%	100% 100%	100% 100%	100% 100%	100% 100%	100% 100%	100% 100%	◎	研修会で計画の実践について指導を行った	継続実施
「食育の日」の実践と食に関する指導資料集(給食時間)の作成	健康教育課	市産品を使用した献立を実施し、児童・生徒に指導するための資料集(給食時間)を作成し、全校に配付している。	—	—	継続実施	継続実施	継続実施	実施	実施	継続実施	実施	◎	CD資料を全校に配布した	継続実施
食に関する授業等の実施	健康教育課	教科指導、道徳、学級活動、総合的な学習の時間等において授業を行うほか、給食時間を活用して食の指導を行う。	—	—	継続実施	継続実施	継続実施	実施	実施	継続実施	実施	◎		継続実施



取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定 ◎○ △×	H24年度業務内容等	事業検証
料理教室・栽培活動等の体験活動の実施	健康教育課	学校における親子料理教室やキッズクッキング等の開催、学校農園での野菜等の栽培及び学校給食への活用などを進める。	—	—	継続実施	継続実施	小学校100% 中学校76%	100% 93%	100% 98%	100% 100%	100% 98%	○	農業体験活動(野菜づくり、米栽培・収穫など)や加工食品(みそ)などの体験活動が各学校で実施されている。	継続実施
学校給食献立の研究	健康教育課	食育の教材となる献立を作成し学校給食の充実を図る。	—	—	継続実施	継続実施	継続実施	実施	実施	継続実施	実施	◎	夏季休業中に献立の検討研修会を実施	継続実施
ふれあい給食の実施	健康教育課	児童・生徒と地域住民との会食を通して学校給食についての理解と関心を深める。	ふれあい給食を実施する学校数	実施率%	(H18)小学校95% 中学校47%→	97.5% 62.2%	86.4% 60.5%	99% 76%	100% 88%	100% 100%	100% 88%	○	老人会、民生児童委員、学校評議員などを対象に各学校でふれあい給食会を実施	継続実施
わくわく楽しい学校給食作品展	健康教育課	給食に関する児童生徒の作品を展示。	作品展の実施	—	継続実施	実施	作品展 会のみ実施	実施	実施	作品展 会実施	実施	◎	作文、絵画、習字、給食献立の各部門において作品総数5,265点の応募があり、表彰・作品展示を行った	継続実施
食育推進指導案集作成 ＜平成20年度新規＞	健康教育課	学校における具体的な食育指導の実践を深める為、「食育推進指導資料集」としてまとめ各小・中学校に配布し、食育の充実を図る。	—	—	—	作成	—	—	—	—	—	◎	平成20年度に作成済み	事業完了
小中学生向け「ひご野菜」教本の作成・配布 ＜平成22年度のみ＞	農業政策課 健康教育課	「ひご野菜」を児童生徒に周知し、子どもを持つ家庭での認知度向上と消費拡大を図るとともに、くまもとの伝統野菜の歴史や現状を知り、ひご野菜が持つ魅力と食の楽しさを学習してもらうため、200部を作成し小中学校へ配布する。	「ひご野菜」の冊子を配布した学校・共同調理場数	配布率(%)	—	—	—	熊本市内 小学校92校 中学校42校 共同調理場18箇所	年間を通して学校給食にひご野菜4品目の導入を図る。(レンコン・セリ・セリ・春日ぼうぶら)	年間を通して学校給食にひご野菜の導入を図るとともに、「給食だより」等により更なる認知度の向上を図る。	年間を通して学校給食にひご野菜3品目の導入を図る。(れんこん・せり・水前寺菜)	○	熊本市学校給食地産地消推進担当者会議で、学校給食へひご野菜を使用していただけよう呼びかけるなど、年間を通して学校給食にひご野菜の導入を図った。	継続実施

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称		H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
わんぱく祭り	熊本市保育園連盟	悪天候のため中止	なし	継続実施
熊本市立小学校歯磨き巡回指導事業	熊本県歯科衛生士会	熊本市小学校 対象者:小学3年生及び特別支援学級児童 【講話と歯みがき実践】むし歯・歯肉炎の原因と予防方法を学ぶ。食育(よく噛んで食べる習慣を身につける。すき嫌いのない食事をする。おやつ取り方)	平成24年6月及び11月 実施校11校 3年生:24学級 児童数689人 特別支援学級:児童数75人	継続実施

I 「市民自らが育む食」への理解と健全な食生活の実践

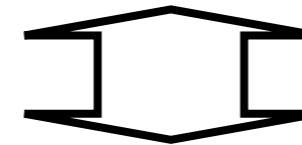
3) 家庭・学校・地域等が連携した食育の推進

【成果指標】

数値目標	H19(直近年)	H20実績	H22	H24	H24(目標)
(9) 親子料理教室等健康づくり活動へ参加したことがある市民の割合	22.6%	21.3%	20.4%	19.4%	35%

【取り組むべき施策】

- ① 学校・保育所等を通じた保護者への啓発推進
- ② 学校・保育所と地域との連携促進



【具体的な取り組み(行政)】

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等					
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証		
「食育だより」の発行	保育幼稚園課	献立表と一緒に毎月「食育だより」を発信。	食育だよりを発行する園	実施率%	公立100% 私立92%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	調査中		献立表と一緒に毎月「食育だより」を発信。	継続実施
保護者の保育参観	保育幼稚園課	保育所で提供している給食の試食と保育所給食の説明。	—	—	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	保育参観(保育参加)時に給食の説明と試食会を行った 公立23園 実施のべ47回 参加者1653人	継続実施	
地域の親子対象調理実習	保育幼稚園課	地域に住む親子と、保育所給食で同年齢の園児が食べている献立を使って、料理教室を行う。	—	—	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	○	公立 4園実施	地域の親子への支援は「子育て支援センター」(子ども支援課)と各区役所保健子ども課との連携で実施しているため、保育園での開催は減少している。	
「給食だより」や「食育だより」の発行	健康教育課	「給食だより」や「食育だより」を発行し、児童、保護者への食に関する啓発を行う。	たよりを発行する学校数	実施率%	(H18)小学校79% 中学校78%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	◎	毎月各学校、共同調理場より発行	継続実施	
生活習慣改善啓発パンフレットの作成・配布	健康教育課	生活改善パンフレットを保護者に配布することにより、基本的な生活習慣について啓発している。	—	—	—	新入学児童配布7,000枚	配布実施	配布実施	配布実施	配布実施	継続実施	配布実施	◎		継続実施	
健康手帳(小中学生用)の作成・配布・活用	健康教育課	肥満傾向にある子どもに対し、健康手帳を活用し家庭と連携した指導を行うことにより、小児生活習慣病の減少をめざしている。	—	—	—	小学校配布987冊 中学校配布561冊	配布実施	配布実施	配布実施	配布実施	継続実施	配布実施	◎		継続実施	

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称	関係団体	H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
「今なぜ食育なの？」 「命と食」	熊本市PTA協議会	11/10(土)開催の市P研究大会第1分科会で、食肉センター坂本義喜さんを講師に「命をいただく」のテーマで講演会を開催。他の多くの命をいただくことで私たちの食生活が成り立っていることを実感すると共に、食への感謝の大切さを学んだ。	11/10(土)「命をいただく」講演会への参加 約300名	継続実施
おやこの食育教室	健康くまもと21市民会議	【ヤング・ママのための食育料理教室】 ノリの普及を目指す熊本県漁協女性部連絡協議会との共催で、節分の日に手づくりの恵方巻きが作れるようにと、まつりずし(バラの花)巻きに挑戦。食ネットのメンバーが指導を行なった。	平成25年2月1日(金) 場所: 富合町健康づくり総合センター「雁回館」 参加者: 28名	継続実施
おやこの食育教室事業	熊本市 食生活改善推進員協議会	主に、幼児期・小学生の親子を対象に、親子クッキングを行いながら、栄養のバランスのよい食べ方などの啓発を行う。	南支部で計4回実施。 8/10 親子18人(園児・児童)8/21 親子29人、2/2親子28人、2/17親子30人(児童)	継続実施
男性のための料理教室		男性も自らの健康に気を配り、元気に暮らしていくことができるよう、自立支援と生活習慣病予防を目的に実施 30歳以上の男性・高齢者対象	西支部にて実施 19名	継続実施
子育てサークル等での食育		地域の子育てサークルなどで、食育活動・子育て支援を行う。	市民からの依頼により実施	継続実施
地域における 子育て中の保護者支援		お隣さん・ご近所さんの食生活改善支援として、身近なところで離乳食等の相談に応じる	市民からの依頼により実施	継続実施
保育所での親子料理教室等		保育園・幼稚園等からの依頼により、調理実習やエプロンシアター等の実施による啓発活動	市民からの依頼により実施	継続実施
小中学校、高校での食育活動		小学校・中学校・高校からの依頼により、調理実習、読み聞かせ等の実施による啓発活動	小・中学校高校からの依頼により実施	継続実施
よい食生活をすすめるためのグループ講習会		配布テキストの中から、数種の献立を選び、調理実習による普及講習会を実施 (牛乳・乳製品の摂取を高めるための食生活改善講習会)	東支部 管内の住民 25人	継続実施
食育の推進		熊本市私立幼稚園協会	体験型食育活動	100%実施(45園/45園)

名称	関係団体	H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
食育推進「母子福祉支援活動」 ～楽しいクリスマス料理～	熊本県栄養士会 熊本市地域事業部	①講話:野菜について～君も野菜博士 ②調理実習:カップ寿司、ミートローフ、パンプキンスープ、デコレーションケーキ	参加者:39名	継続実施
市民公開講座		【1】テーマ～今こそ見直そう魚の力～①講話および実演～魚のさばき方の基本:魚を食べやすくする工夫・魚を好きになる市場情報他②調理実習「旬の魚料理アラカルト」食欲がないとき、夏バテ解消の魚料理、食べやすい魚料理、食欲をそそる盛り付け方他 【2】①講演:認知症の理解と予防 ②事例発表:摂食・嚥下障害への取り組み	【1】参加者46名 【2】参加者56名	継続実施
歯磨き巡回指導	歯科医師会	小学3年生と特別支援学級の児童を対象とした歯科保健指導。 媒体等を使用し、「好き、きらいのない、なんでもよく噛んで食べる元気な子」講話。 虫歯になる原因の説明、ブラッシング指導、甘い物を控え好き嫌いをなくし、バランスの良い食事を心がけようという内容。	6月に6校、11月に4校実施	平成25年度も、 6月4校、11月に 6校実施予定。
高齢者対象 「お口の健康講座」	熊本県歯科衛生士会	「お口を健康にして、楽しい食事を！」講話とお口健康体操・健康ゲームの実践 対象者:地域の高齢者	平成24年12月8日(土) 10時30分～11時30分 場所:出水南コミセン 対象者:地域の高齢者20人、包括支援センターサポート2人	継続実施

## II 健全な食生活を実践するための環境整備

### 1) 日本型食生活の実践へ向けた情報の発信

#### 【成果指標】

数値目標	H19	H20	H22	H24	H24(目標)
(10) 食事バランスガイドを参考にした食生活を実践する市民の割合	27.1%	80.5% *	27.9%	29.1%	40%
(11) 日本型食生活を実践している市民の割合	81.5%	81.5%	78.8%	80.4%	85%
(12) 食育に関する活動や行動をしている市民の割合	29.3%	30.4%	28.0%	26.0%	40%

#### 【取り組むべき施策】

- ① 「食事バランスガイド」等を活用した食生活の実践への支援
- ② 保健福祉センター等における食育に関する普及啓発活動の推進

\* 平成19年度調査と設問形式が異なるため、参考値として提示

#### 【具体的な取り組み(行政)】

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証
すこやか食生活改善講習会	健康づくり推進課 各区役所 保健子ども課	小学校区ごとに生活習慣病予防を目的とした献立の普及を図る調理実習や食事バランスガイドの啓発を行う	すこやか食生活改善講習会参加者数(延べ)	参加者数(延べ)	28,785人	30,610人	32,577人	34,727人	36,843人	39,500人	39,027人	○	中央区:19校区482人、東区:18校区474人、西区:16校区356人、南区:19校区431人、北区:20校区441人	継続実施
育児教室	子ども支援課 各区役所 保健子ども課	4~5か月児(第1子)の発育・健康増進のための情報を提供	-	-	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	4~5か月児(第1子)の発育・健康増進のための情報を提供 中央区:144人、東区:328人、西区:84人、南区:113人、北区:102人	継続実施
両親学級	子ども支援課 各区役所 保健子ども課	妊婦とその夫などに妊娠期・授乳期の望ましい生活習慣等の指導を行う。	参加者数	人	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	妊婦とその夫などに妊娠期・授乳期の望ましい生活習慣等の指導を行う。 中央区:116人、東区:181人、西区:45人、南区:90人、北区:98人	継続実施
妊産婦健康相談	子ども支援課 各区役所 保健子ども課	妊産婦の食生活について指導を行う。	来所者数	人	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	妊産婦の食生活について指導を行う。 中央区:1223人、東区:1168人、西区:455人、南区:534人、北区:745人	継続実施
育児相談	子ども支援課 各区役所 保健子ども課	乳幼児の食生活について指導を行う。	来所者数	人	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	乳幼児の食生活について指導を行う。 中央区:565人、東区:796人、西区:243人、南区:501人、北区:584人	継続実施
ピカピカカミカミ教室	子ども支援課 各区役所 保健子ども課	1歳6か月児健康診査後のフォロー教室(幼児期におけるむし歯予防のための食習慣の講話・おやつを試食、ブラッシング指導)	参加者数	人	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	中央区:134人、東区:153人、西区:63人、南区:109人、北区:148人	継続実施

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証
公立障がい児 デイサービス事業	保育幼稚園課	公立保育所における障害児 サービスを利用する障害児と その保護者を対象とした栄養 相談・指導	延べ参加 人数	人	901人	1,020人	2,385人	3,386人	3417人	2,400人	3,728人	◎		継続実施
ふれあい出前講座	生涯学習推進課	市及び関係行政機関等の職員が 講師として地域や学校に出向き、 業務の説明や専門知識を活かした 講話や実習等を行う。	ふれあい 出前講座 「食育講座」 開催数	回	—	20回	27回	31回	34回	40回	30回	○	ふれあい出前講座の中で食育に関する講座を実施した。 ・健康教育課「食育の推進」 実施回数 1回 受講者数 15人 ・区役所保健子ども課「食育講座」 実施回数 3回 受講者数 124人 ・区役所保健子ども課「今すぐ始める 生活習慣病予防」 実施回数 5回 受講者数 113人 ・食品保健課「シャットアウト食中毒」 実施回数 10回 受講者数 271人 ・食品保健課「食卓に並ぶ安全な食品」 実施回数 2回 受講者数 75人 ・食品保健課「見えますか？食品の表示」 実施回数 2回 受講者数 67人 ・食品保健課「食品添加物ってどんなもの？」 実施回数 2回 受講者数 57人 ・東海大学九州キャンパス 「頭がよくなる食生活」 実施回数 1回 受講者数 51人 ・東海大学九州キャンパス 「食と健康(1)」 実施回数 2回 受講者数 65人 ・熊本保健科学大学 「嚥下障害(飲み込み障害)について」 実施回数 2回 受講者数 50人	継続実施
40～64歳の健康教育	各区役所 保健 子ども課	40～64歳の市民に対し、生活習慣 病予防のためや健康づくりに 関する知識の普及・啓発を行う。	参加人数	人	6,077人	4,039人	11,057人	12,499人	12,808人	13,000人	10293人	○	中央区：18回543人、東区：57回1627人、西区： 42回1182人、南区：163回6472人北区：21回 469人	継続実施
40～64歳の健康相談	各区役所 保健 子ども課	40～64歳の市民に対し、個人個人 の生活習慣や食習慣に応じて、 生活習慣病予防や健康づくりに 関しての助言・相談を行う。	参加人数	人	4,416人	2,372人	6,699人	4,477人	4,520人	10,136人	4053人	○	中央区：31回130人、東区：91回375人、西区： 113回1112人、南区：132回2197人、北区：31回 239人	継続実施
中食を中心とした食生活 改善マニュアルの作成	健康づくり推進 課	食の乱れが著しい高校生・青年 期をターゲットとし、中食の上手な 利用方法・組み合わせ等を提案 する	なし	—	—	作成	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	食生活改善マニュアルを作成し、周知に努め ている。	継続実施
生活習慣病対策食育実 践講座の開催 <平成21年度新規>	健康づくり推進 課 各区役所 保健 子ども課	事業所・大学等の従業員に対し て、食事バランスガイドやエクサ サイズガイドを用いた啓発を行う	参加者数	人	—	—	大学生 約750人 従業者 67人	大学生 約944人 従業者 248人	大学生 約1,049 人 従業者 381人	—	大学生 1,238人 従業者 301人 女性 142人	◎	(大学生)崇城大学、熊本大学、 九州ルーテル学院大学 (従業者)九州農政局、本妙寺保育園、 五車堂本店、平田機工	継続実施

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24年度目標	H24実績	判定◎○△×	H24年度業務内容等	事業検証
栄養成分表示実施店舗の紹介 <平成22年度新規>	健康づくり推進課 各区役所 保健子ども課 食品保健課	栄養成分表示店舗の紹介・広報	店舗数	店	-	-	13店	9店	10店	25店	11店	○	市民が食育を実践しやすい環境を整備するため、食品関連事業者の実施する栄養成分表示等の支援を行った。	継続実施
CKD対策事業	健康づくり推進課 各区役所 保健子ども課	適切な食生活を実践することで、CKD予防を図り、新規人工透析者の減少を目指す。	新規人工透析者数の減少	人	-	-	295人	288人	273人	平成26年度 200人	266人	○	イベント等を通して市民に積極的な情報提供を行うとともに発症予防に向けた保健指導の実施や悪化防止のために病診連携などを推進した。	継続実施

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称		H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
食事バランスガイド地域普及講習会	熊本市食生活改善推進員協議会	食事バランスガイドについて、地域住民に対して啓発を行う。	地域住民に実施	継続実施
よい食生活をすすめるためのグループ講習会		配布テキストの中から、数種の献立を選び、調理実習による普及講習会を実施(牛乳・乳製品の摂取を高めるための食生活改善講習会)	南支部管内の住民 23人	継続実施
講演会の開催	健康くまもと21市民会議(食ネット部会)	講師:宮田研蔵 食と農の体験塾 塾長 内容:「いま、<食>から未来を考える。」をテーマに、食と農の体験を通して知識を知恵に変える活動についての講話	日時:平成24年8月18日(土) 場所:ウエルパルクまもと大会議室 参加者:30名	継続実施
		講師:片野學 東海大学農学部教授 内容:「食とみどり、水を守る」をテーマに、野菜と水の関係、旬を食べる科学的な意味などについての講話	日時:平成25年1月26日(土) 場所:熊本市中央公民館 第3研修室 参加者:50名	継続実施
若者のための食育・料理講座	健康くまもと21市民会議(食ネット部会)	親となる若者が自分自身の食生活を見直すために、お弁当づくりの実習を通して、栄養バランスに優れた日本型食生活を学ぶ。 【内容】講話・魚のさばき方実演・調理実習(お弁当作り)・試食・まとめ 【応募方法】市内大学、専門学校及び高校に在学する学生を対象に公募 【受講費】1人500円 【協賛】熊本ヤクルト株式会社・熊本大同青果株式会社	日時:平成24年10月13日(土) 場所:熊本市中央公民館 調理室(5F) 参加者:28人	継続実施
		ヤング・ママのための食育料理教室【再掲】 内容 ノリの普及を目指す熊本県漁協女性部連絡協議会との共催で、節分の日に手づくりの恵方巻きが作られるようにと、まつりずし(バラの花)巻きに挑戦。食ネットのメンバーが指導を行なった。	平成25年2月1日(金) 場所:富合町健康づくり総合センター「雁回館」 参加者:28名	継続実施
栄養に関する表示支援実施事業における栄養価計算等業務(委託)	熊本県栄養士会	熊本市において、「熊本市食の安全安心・食育推進計画」に基づき、市民が食育を実践しやすい環境を整備するため、「栄養に関する表示支援事業における栄養価計算業務」の実施により、栄養に関する表示に必要な献立表の作成や助言、栄養価計算を行った。	栄養計算 14件、熊本減塩美食メニュー31件	継続実施

## II 健全な食生活を実践するための環境整備

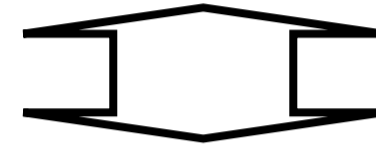
### 2) 食生活改善をサポートする人材の育成

#### 【成果指標】

	H19	H20	H22	H24	H24(目標)
(13) 食育推進に関するボランティア数	560人	792人	1,101人	1,208人	1,250人

#### 【取り組むべき施策】

- ① 管理栄養士、栄養士、専門調理師等、専門的知識を有する人材の育成と活用促進
- ② 食生活改善推進員等地域支援者の育成



#### 【具体的な取り組み(行政)】

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証
栄養士・管理栄養士養成施設実習生受け入れ	各区役所 保健子ども課	管理栄養士等養成施設からの依頼により、実習生が公衆栄養の実践活動の場における課題発見・解決を通して管理栄養士等として必要な知識・技能を習得することを支援。	受入数	人	継続実施	23人	40人(全体)	37人	40人(全体)	継続実施	40人(全体)	◎	中央区:8人、東区:8人、西区:8人、南区:8人、北区:8人	継続実施
栄養士・管理栄養士養成施設臨地実習および校外実習生受け入れ	健康教育課	管理栄養士等養成施設からの依頼により、実習生が学校給食における課題発見・解決を通して管理栄養士等として必要な知識・技能を習得することを支援。	受入数	人	継続実施	継続実施	97人	93人	85人	継続実施	94人	◎	給食管理と給食時間における食に関する指導等を5日間で指導。学校教育における食育のあり方について実習した。	継続実施
栄養教諭養成施設教育実習生受け入れ	指導課 健康教育課	栄養教諭養成施設からの依頼により、栄養教諭として児童・生徒の発育に必要な栄養状態の管理や、学校における食に関する指導に必要な知識・技能を習得することを支援。	受入数	人	—	—	8人	9人	10人	—	5人	◎	給食管理と給食時間および給食時間、授業等における食に関する指導等を5日間で指導。学校教育における食育のあり方について実習した。	継続実施
栄養士及び調理師対象の衛生教育	食品保健課	研修会を開催し、厚生労働省の指導方針や最新の栄養情報、健康づくりや衛生管理等に関する情報を伝達。	衛生教育延べ受講者数	人	1,041人	1,098人	1,067人	1,216人	958人	900人	729人	○	調理師研修会 1回/栄養管理研修会 1回/合同研修会 1回を開催	継続実施



取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定 ◎○ △×	H24度業務内容等	事業検証
食品情報の迅速で正確な収集と発信 (大型量販店ネットワーク)	食品保健課	市民及び食品関連事業者に対して、市ホームページ・市報及び各種メディアなどの広報媒体を通じて正確な情報を発信。	発信回数	回	30回	41回	28回	31回	30回	40回/年	33回	○	28社(137店舗,H25.3月末現在)に対し、定期情報 24回/緊急情報 4回(食中毒注意報)/臨時情報 5回をFAX/電子メールにて情報提供	継続実施
地域歯科保健研修会等の開催	健康づくり推進課	口の健康に対する市民意識の向上を図ることを目的に、口の健康づくりに必要な情報を提供する。	口の健康に満足している市民の割合	%	(H18) 29.8%	26.1%	21.5%	40.0%	26.6%	40%	31.0%	○	各区役所において歯科関係者を対象とした研修会の開催、歯科啓発イベント等を実施した。	継続実施
食育担当者等研修会、栄養教諭・学校栄養職員研修会の実施	健康教育課	食育担当者等を対象として食育推進体制の整備や食育全体計画策定等の研修会を開催。また栄養教諭・学校栄養職員を対象として授業力向上等の研修会を行う。	開催回数	—	継続実施	継続実施	「健康教育研修会」2地区に分かれて8/18・8/19 「栄養教諭・学校栄養職員研修会」	各校の食育担当者および栄養教諭・学校栄養職員が参加	5/12実施食育担当者研修会(200人)栄養教諭・学校栄養職員研修会(72人)が参加	食育担当者研修会(200人)栄養教諭・学校栄養職員研修会(70人)の実施	5/10実施食育担当者研修会(202人)栄養教諭・学校栄養職員研修会(70人)が参加	◎	各学校の食育担当者および全栄養教諭・学校栄養職員が参加する。本年度の健康教育課の取組、食育計画の整備についての説明、学校における食育活動の実践発表およびワークショップによる情報交換を実施。	継続実施
生活習慣病予防対策スキルアップ事業	健康づくり推進課	健康づくりに関する地域ボランティアや職域の衛生管理者等を対象とした意識啓発やスキルアップ事業を開催するもの	—	—	継続実施	地域編と職域編を5回/年	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	—	×	中小企業の従業員と家族が加入する「協会けんぽ」と健康づくりに関する協定を締結した。今後は、協働により、働き盛り世代の生活習慣病予防対策を進めていく予定。	事業完了

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称		H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
調理師全体研修会及び保育士、調理師合同研修会	熊本市保育園連盟	食育を多方面から見直すことで保育園給食を営むことの大切さを学ぶ	・給食部会全体研修会3回実施 ・保育士会、給食部会合同研修1回実施	保育園における給食室の役割を見つめ直し、連携して食育を推進する。

II 健全な食生活を実践するための環境整備

3) 食品関連事業者等と連携した食育の推進

【成果指標】

	H19	H20	H22	H24	H24(目標)
(14) 飲食店で栄養成分表示を見たことがある市民の割合	56.3%	54.1%	56.9%	54.3%	65%

【取り組むべき施策】

- ① 飲食店や食品販売店におけるヘルシーメニューの提供促進
- ② 食品工場見学等、体験を通じた食育情報の提供

【具体的な取り組み(行政)】

取り組み名称	NO	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
				評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定 ◎○ △×	H24度業務内容等	事業検証
健康くまもと21推進事業 (健康づくりできます店)	11	健康づくり推進課 食品保健課	地産地消、栄養成分表示など健康づくりに積極的に取り組む飲食店等の認知と市民への周知を図る。	登録店舗数	店舗	114店舗	114店舗	114店舗	115店 (平成23年2月末)	111店 (平成24年2月末)	150店舗	110店 (平成25年3月末)	○	熊本市内の飲食関係事業者で、以下に挙げる項目のうちひとつでも取り組みを行っている事業者を健康づくりできます店として登録。 1.栄養成分表示 2.ヘルシーメニュー(塩分控えめ(減塩美食)表示や野菜たっぷりの表示など) 3.ヘルシーオーダー(ご飯の量の調整ができるなど) 4.地産地消 5.禁煙・分煙の推進 6.バリアフリー 7.高齢者にやさしい店(メニューが大きい字で書いてあるなど) 8.子ども同伴でも安心の店 9.若者の心や体の健康づくり支援 10.健康づくりの情報	今後も本制度について飲食店及び市民に周知を図り、登録店舗数を増やす
食育推進企業団(仮称)の設置 <平成20年度新規>	9	健康づくり推進課	食育を推進するための民間団体(主に食品関連事業者)で構成する連絡会	登録団体数	団体(者)数	—	モデル店として9企業	企業セミナー参加者として33企業	—	—	増加	—	△	—	—
食品関連事業者等への支援 <平成21年度新規>	10	健康づくり推進課 各区役所保健子ども課	食事バランスガイド等を使った啓発を行う食品関連事業者を増やすための支援	実施施設数	施設数	—	—	13企業	9企業	10企業	増加	11店	◎	中央区:3店、東区:2店、西区:2店、南区:2店、北区:2店	継続実施

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称	関係団体	H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
健康づくりできます店登録事業	健康くまもと21市民会議	<p>熊本市内の飲食関係事業者で、以下に挙げる項目のうちひとつでも取り組みを行っている事業者を健康づくりできます店として登録。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.栄養成分表示</li> <li>2.ヘルシーメニュー(塩分控えめ(減塩美食)表示や野菜たっぷりの表示など)</li> <li>3.ヘルシーオーダー(ご飯の量の調整ができるなど)</li> <li>4.地産地消</li> <li>5.禁煙・分煙の推進</li> <li>6.バリアフリー</li> <li>7.高齢者にやさしい店(メニューが大きい字で書いてあるなど)</li> <li>8.子ども同伴でも安心の店</li> <li>9.若者の心や体の健康づくり支援</li> <li>10.健康づくりの情報</li> </ol>	<p>できます店登録数 110店 (平成25年3月末)</p>	<p>今後も本制度について飲食店及び市民に周知を図り、登録店舗数を増やす</p>

### Ⅲ 市民運動としての食育の推進

#### 1) 市民協働によるくまもと食育市民運動の展開

##### 【成果指標】

数値目標	H19	H20	H22	H24	H24(目標)
(15) 食育に関心がある市民の割合	76.0%	77.7%	75.6%	73.4%	90%
(16) 食生活面で「くまもとらしさ」を感じたことのある割合	58.0%	55.2%	51.7%	52.9%	65%

##### 【取り組むべき施策】

- ① 食育推進に関する機運の醸成
- ② 関係団体と連携した食育運動の展開

##### 【具体的な取り組み(行政)】



	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等				
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証	
健康くまもと21推進事業(食ネット部会)	健康づくり推進課	食の学習や農業体験を通じて食への知識や理解を深め、食の情報を提供することで食の大切さを市民や社会に働きかける。	開催回数	回	継続実施	2回	2回	2回	2回	2回	継続実施	4回	◎	○若者のための食育料理講座 ○講演会「いま、<食>から未来を考える。」 ○講演会「食とみどり、水を守る」～野菜と水の関係、旬を食べる科学的な意味～ ○ヤング・ママのための食育料理教室	継続実施
8020推進員活動支援事業	健康づくり推進課 各区役所保健子ども課	8020推進員による地域ボランティア活動を支援する。	地域活動件数	件	63件	129件	265件	286件	308件	300件	300件	407件	◎	中央区:166件、東区:52件、西区:45件、南区:90件、北区:54件	継続実施
思春期の食育推進事業	健康づくり推進課	熊本市食生活改善推進員協議会と協働で、中・高校生を対象に思春期における健康課題改善へ向けた実習・講演会を実施	思春期のヘルプサポーター養成数	校	3校	2校	2校	3校	-	4校	-	-	◎	平成22年度で事業修了。 平成23年度からは、食生活改善推進員協議会が、中学高校からの依頼で実施継続中。	事業完了
食生活改善推進員全体研修会	健康づくり推進課 各区役所保健子ども課	講話やグループワーク等で食生活改善のボランティア活動時に活用する知識を習得。	延べ参加者数	人	-	329人	310人	318人	305人	305人	継続実施	411人	◎	第1回 平成24年6月21日 講 話「ゴミ減量と覚えておきたいごみだしルール」「食中毒予防について」 第2回 平成25年1月18日 講 演「ロコモティブシンドロームってなあに？」 「オレンジリボンサポーター講習」	継続実施
食生活改善推進員各所研修会<平成20年度新規>	各区役所保健子ども課	食生活改善推進員を対象として、新人研修、スキルアップ研修、すこやか食生活講習会のための調理実習等ボランティア活動に関するより具体的技術と知識を習得するための研修会の開催	延べ参加者数	人	-	1,644人	2,476人(役員会等を含む)	2,841人	3,042人	3,042人	8,044人	3,032人	○	中央区:研修会9回334人、役員会等24回411人 東区:研修会11回422人、役員会等11回153人 西区:研修会7回174人、役員会等13回249人 南区:研修会8回275人、役員会11回161人 北区:研修会12回490人、役員会等12回363人	継続実施

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等				
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証	
食生活改善推進員地区組織活動の支援	健康づくり推進課各区役所保健子ども課	役員会、リーダー会の開催並びに地域で行う食生活改善活動(食文化伝承活動含む)に関する助言指導を行う。	支援数	地域講習会受講者数	28,995人	27,599人	32,914人	33,976人	55,013人	39,000人	63,438人	◎	中央区:6,398人 東区:7358人 西区:7459人 南区:10,260人 北区:31963人	継続実施	
熊本市民健康フェスティバル	健康づくり推進課	健康づくりを目的とするイベントにおいて、食生活改善推進コーナーを設け、食育に関する情報提供や啓発活動を行う。	健康フェスティバル来場者数	来場者数(人)	15,000人	17,724人	14172人	17,428人	17,404人	20,000人	17,479人	○	熊本県民交流館パレアにおいて健康フェスティバルを開催(平成24年10月13、14日)	継続実施	
くまもと食農応援団活動への支援	農業政策課 各区役所 農業振興課	収穫体験ツアー等の「くまもと食農塾」への参加をとおして更なる農業理解を図る。	活動支援	活動支援	継続実施	継続実施	継続実施	収穫体験ツアー等の「くまもと食農塾」及び「食と農を考えるシンポジウム」への参加	食農応援団独自事業への参加支援	区役所が実施する食農体験事業と食農応援団が開催する事業との連携を図る	継続実施	○	区役所実施の収穫体験ツアーを2度行なったが、食農応援団のNPO法人化の準備に伴い、協同実施する事はできなかった。	継続実施	
食育に関する消費者セミナーの実施	商工振興課(消費者センター)	市民対象にした食育に関する啓発を行う。 夏休み親子食育セミナー	セミナー参加者数	参加者数	30人	H20.8.27 中央公民館 「安心な食品の選び方」と調理実習 0人 参加者が少なかったため中止	H21.7.18 田崎市場 44人	H22.7.24 田崎市場 23人	H23.7.23 田崎市場 37人	継続実施	H24.7.21 田崎市場 25人 H24.10.30 中央公民館 「冷凍食品を正しく使おう」 33人	○	○田崎市場 毎年夏休みに1回開催。 小学校高学年と保護者を対象に開催。「食品の流通などについて」の体験型講座。 ○中央公民館 冷凍食品で失敗しない調理の基本を学ぶ	継続実施	
くまもと市民の食と農を考えるシンポジウム・くまもと食農塾開催	—	収穫体験ツアー等の「くまもと食農塾」及び「食と農を考えるシンポジウム」の開催	参加者数	参加者数	350人	参加者数 400人	376人	シンポジウム参加 292人 バスツアー参加者 128名 農業体験参加者 86名	—	—	—	—	—	—	事業完了

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証
農産物フェア(秋のふれあい収穫祭等)開催事業への支援	農業政策課 各区役所 農業振興課	農畜産物の展示即売及び生産者と消費者の触れ合いの場を創出。(熊本市の農畜産物紹介、旬の野菜・果物の試食及び料理紹介、花を用いた装飾及び品種の紹介、野菜・果実・水産物・花束・鉢物等の販売)	なし	—	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	実行委員会メンバーに加え、新たにJA鹿本・JAうき・各地域の生産者19団体の参加を得た。	継続実施	継続実施	◎	市産農産物のPR・消費拡大を図るため、テレビ局イベントとの併催や新市街アーケード内において市内3JAや2花き市場及び地域の生産者自ら販売することで、主尾飛車に安全・安心な農水畜産物をアピールした。また試食・販売を通して消費者とふれあいの場の創出を図った。 ・第一回 10月20日(土)～21日(日) ・場所 グランメッセ熊本 ・第二回 11月9日(金)～10日(土) ・場所 新市街アーケード内	継続実施
くまもと市民食育フェスタ<平成20年度新規>	健康づくり推進課	食育に関する市民啓発を行い、市民運動として食育を推進する。	開催回数	回	0回/年	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	◎	会場を江津湖(動植物園)に移し、名称を、わくわく江津湖フェスタ「食と健康フェア2012」に改め実施(H24、6/2,3) 入園者数:10,004人	継続実施
(校区単位健康まちづくり)健康生活習慣病予防モデル事業	健康づくり推進課 各区役所保健子ども課	保健福祉センター毎にモデル校区を指定し、食生活改善を始めとした健康課題解決に取り組む。	—	—	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	平成20年度から平成23年度にかけ、旧保健福祉センターにおいてモデル校区を選定し実施してきたが、平成24年度からは、区役所をまちづくりの拠点として位置づけ、これまでのモデル事業でのノウハウ等を活かし、小学校区単位の健康づくりに、全市的に取り組むこととした。	継続実施

Ⅲ 市民運動としての食育の推進

1)市民協働によるくまもと食育市民運動の展開  
～みんなで進めよう「くまもとの食育」

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称	関係団体	H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
健康づくりできます店スタンプラリー	健康くまもと21市民会議	健康づくりできます店の各店を回るスタンプラリーを開催。実施方法については、健康づくりできます店にスタンプラリーカード(応募用紙)を設置し、3個スタンプを集めた方が、住所・氏名・連絡先を記入して応募する(景品あり)。	実施期間:平成25年2月1日～3月15日 応募締切:平成25年3月18日 実績:応募総数473通	内容を見直した上で、継続実施
若者のための食育・料理講座		親となる若者が自分自身の食生活を見直すために、お弁当づくりの実習を通して、栄養バランスに優れた日本型食生活を学ぶ。 【内容】講話・魚のさばき方実演・調理実習(お弁当作り)・試食・まとめ 【応募方法】市内大学、専門学校及び高校に在学する学生を対象に公募 【受講費】1人500円 【協賛】熊本ヤクルト株式会社・熊本大同青果株式会社	平成24年10月13日(土) 【場所】熊本市中央公民館 調理室(5F) 参加者:28人	継続実施
食と健康フェア		(すくすく・らくらく子育てネット部会) 2日AM ～おやこスタジオ RAFIT～、絵本ライブ「カラダ、ヘルシー、動物バージョン」 (食ネット部会) 3日PM 「おうちでピーマンを育ててみませんか?」他 (スポーツ支援部会) 3日AM 楽しく歩こう江津湖ウォーキング、体組織測定(先着30名) (健康づくりできます店部会) 3日PM ～みゆきの里 ウェルネススクエア和楽～、食と運動による生活習慣病予防	平成24年6月2日(土)、3日(日) 場 所:熊本市動植物園	食ネット部会、健康づくりできます店部会は継続実施
熊本市健康フェスティバル等各種イベントへの参加	熊本市食生活改善推進員協議会	熊本市が行う各種イベントへ参加し、市民啓発を行う。	食と健康フェア2012、熊本市健康フェスティバル、ふれあい収穫祭、田崎市場感謝祭、熊本城マラソン等参加	継続実施
すこやか食生活改善講習会		熊本市委託事業。生活習慣病予防を目的とした献立の普及伝達を行う調理実習(または試食)。あわせて、食事バランスガイドの普及を行う。	市内92校区で1回ずつ実施 参加者:2,184人	継続実施
歯たちの健診	熊本市歯科医師会	熊本市内の大学の学園祭にて、無料歯科健診をし、その中で食育に関する指導も行う。	平成24年度は「熊本ルーテル学院大学」で実施。 健診者数:64名	実施予定
歯の祭典(ウェルパルクまもと)		12のコーナーを設け、それぞれで歯に関する説明を行い、その中で食育に関するお話もしています。特に、歯科相談コーナーでは歯に良い食べ物、悪い食べ物等の説明を行い、それが全身の健康にも良いということを説明しています。また、22年度より講演会を取り入れ、市民の方々が多く参加できるようにしました。	平成24年6月3日(日) 12のコーナーの総計で、来場者数2,025名。	平成25年6月9日(日)開催予定。
熊本市子ども文化会館での無料歯科相談		名称は「歯っぴーキッズ」 子どもの健康についての啓蒙活動の一環。 内容は、無料歯科健診で、その中で食育に関する指導も行っています。 (例:断乳の時期、間食、ジュース、ファストフード、噛む回数等)	平成24年5月13日(日) 来場者数は計181名、乳幼児77名、小学生28名、成人76名。	平成25年度は、場所を「熊本市動植物園」に移して、6月2日(日)実施予定。

名称	関係団体	H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
熊本市民健康フェスティバル	熊本市歯科医師会	歯科相談・健診、口臭測定、ブラッシング指導、フッ化物洗口等を行いました。その中で、歯に良い食べ物、悪い食べ物等についての説明もしました。	平成24年 10月13日(土)健診者数:217名 10月14日(日)健診者数:252名	平成25年 9月28日(土)・ 9月29日(日)予定。
健軍医商連携事業「健康フェア」	熊本県栄養士会 熊本市地域事業部	栄養食事相談コーナーを担当(パンフレット等の資料配布・食生活診断)	相談件数:32件	継続実施
市民啓発事業(協働)		はあもにいフェスタ2012:テーマ 身体は正直者です!ストレス社会を生き抜くために ①講演「身も心も生き活きと輝くために」~健康熊本の伝統を未来に~②さわやかに・すこやかストレッチング~イスを使って「やる気」がわいてくるカンタン体操!	参加人数:37名	未定
熊本市民健康フェスティバル		栄養食事相談コーナーを担当(食品のディスプレイやパンフレット等の資料配布・食生活診断)	相談件数:232件	継続実施
食と健康フェア		テーマ【あなたの食生活は大丈夫?栄養士と一緒に考えてみませんか?】 パンフレットや食品のディスプレイ等を準備し、実際に目で見て、感じて納得、実践できるように栄養士が係る	相談件数:356件	継続実施
熊本市子どもの食育推進ネットワーク事業		グループに分かれて親子料理教室を開催(トライアングルグループ・熊本うまか隊) ①テーマ:郷土料理を作ろう食べよう:調理実習(同じ内容で、対象者を分けて実施) ②テーマ:野菜の力:講話と調理実習	参加人数:延べ176名	継続実施
歯の祭典	熊本県歯科衛生士会	【歯科衛生士会コーナー】位相差顕微鏡(口腔内細菌の観察)や唾液PHテストを体験して、日常生活における食生活様式や口腔衛生に対する意識を高める。歯みがき指導。 【お口の介護予防コーナー】高齢者が一生おいしく、楽しく、安全な食生活を営むために、お口の機能向上及び口腔ケアの実践	平成24年6月3日(日)11時~16時 場所:ウエルパル 対象者:地域住民290人程	継続実施
健康フェスティバル		【歯科衛生士会コーナー】位相差顕微鏡(口腔内細菌の観察)や唾液PHテストを体験して、日常生活における食生活様式や口腔衛生に対する意識を高める。歯みがき指導。 【お口の介護予防コーナー】高齢者が一生おいしく、楽しく、安全な食生活を営むために、お口の機能向上及び口腔ケアの実践	平成24年10月13・14日(土・日) 10時~16時30分 場所:パレア 対象者:市民 延1030人	継続実施
熊本市子どもの食育推進ネットワーク	熊本市民生委員・児童委員協議会	協議会として、熊本市子どもの食育推進ネットワークに登録、参加し、代表者・実務者会議、年2回の研修会などに積極的に参加を行っている。会長会議で子どもの食育について研修している。	各単位民児協によって具体的な活動は異なるが、食育の重要性も踏まえて活動している。	継続実施



### Ⅲ 市民運動としての食育の推進

#### 2) 食育支援団体のネットワークの整備

##### 【取り組むべき施策】

①関係機関・団体とのネットワーク体制の整備・情報の一元化

##### 【具体的な取り組み(行政)】

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証
食の安全安心・食育推進会議 ＜平成20年度新規＞	健康づくり推進課 食品保健課 関係各課	熊本市食の安全安心・食育推進計画の進行状況の検証・評価を行う	開催回数	回	0回/年	2回/年	2回/年	3回/年	2回/年	2回/年	6回/年 (うち策定部会4回)	◎	推進会議 2回 策定部会 安全安心の確保 2回 食育の推進 2回	継続実施
熊本市子どもの食育推進ネットワーク	健康づくり推進課 各区役所 保健子ども課	食育に携わる関係団体(保育所・幼稚園・地域保健福祉課ボランティア等)からなるネットワークで、地域における食育活動を展開する。	ネットワーク加入団体(者)数	団体(者)数	158団体	220団体(人)	253団体(人)	280団体(人)	286団体(人)	290団体(人)	314団体(人)	◎	食育に携わる関係団体からなるネットワークは、代表者会議、実務者会議を開催し情報の共有化や連携の推進を図り、子どもの食育活動を展開した。	継続実施
熊本市子どもの食育推進ネットワーク 全体研修会	健康づくり推進課	食育の推進を目的としたネットワークメンバーの情報交換と資質向上のための研修会を開催。(年2回)	研修会参加者数	人	290人	340人	409人	403人	375人	350人	466人	◎	第1回研修会では、講師名古屋短期大学小川教授を招聘しての講演会や活動方針の確認、資料等展示を行った。第2回研修会は、平成24年度地域研修会活動報告4事例及び資料等展示を行った。	継続実施
熊本市子どもの食育推進ネットワーク地域研修会	各区役所保健子ども課	地域の食育担当者が連携を強化し食育推進活動を活性化させるため、地域のより身近な所で食育を展開するための情報交換と資質向上を支援	研修会参加者数	人	170人	(延べ)409人	(延べ合計)358人	(延べ合計)355人	(延べ合計)389人	350人	592人	◎	各区役所保健子ども課ごとに、地域研修会を開催した。具体的な活動内容は、地域実践活動(親子の料理教室他)、調理実習、講話・グループワーク、各施設の食育計画に関する情報交換など様々な取り組みが実施された。	継続実施
食に関するホームページへの情報掲載 ＜平成20年度新規＞	食品保健課 健康づくり推進課	食に関する役立つ情報を提供	アクセス数	回	0	延べ20,450 (H20.11～H21.3)	延べ69,062 (H21.4～H22.3)	延べ82,006人 (H22.4～23.3)	延べ91,987人 (H23.4～24.3)	新規増加	延べ100,116人 (H24.4～25.3)	◎	活動事例等を随時更新。活動事例として保育園をはじめ高齢者向け活動等情報提供をいただき、合計13件掲載した。また、市民対象の講習会等の案内を掲載するなどした。	継続実施

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等				
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定 ◎○ △×	H24度業務内容等	事業検証	
食育に関する全市的広報	健康づくり推進課	市政だより、ラジオ等を使った市民への啓発	実施回数	回	(H20) 6回	11回	6回	7回	7回	7回	拡充	7回	○	市政だより、ラジオテレビ等を使い市民へ啓発した。	継続実施

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称	H24度取り組み内容		H24度実績	今後の予定
CKD対策	熊本県栄養士会	CKD対策栄養食事療法研修会(月1回)	12回	継続実施
		重症予防対策(日本栄養士会連携事業)・スキルアップ事業	3回	継続実施
		開業医対象アンケート実施による状況把握、等	1回	継続実施
		健康教室として、食生活習慣病対策公開講話実施	7回	継続実施
		管理栄養士派遣(開業医の処方箋による指導)	対象者:1200件	継続実施
		公開講座としてCKD及び関連疾病に対応した研修会を開催		継続実施

IV くまもの自然環境と食文化に根ざした食育の推進

1) 生産者と消費者の交流

【成果指標】

	H19	H20	H22	H24	H24(目標)
(17) 生産者と消費者が近く交流しやすいと感じている市民の割合	24.5%	29.3%	29.6%	24.5%	30%
(18) 学校農園や休耕田等を活用した栽培活動を実施している小・中学校の割合	小学校 80校中78校 98% 中学校 37校中20校 54%	81/81 100% 37/38 97.4%	100% 97.4%	100% 100%	100% 100%

【取り組むべき施策】

- ①生産者と消費者の交流会の開催
- ②農林漁業体験等を通じた食育活動の推進

【具体的な取り組み(行政)】

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証
生産者との給食交流会	健康教育課	給食物資の生産者と児童・生徒の交流と食を実施。交流給食を通して生産者とふれあい食育の推進を図る。	なし	-	継続実施	継続実施	継続実施	実施	実施	継続実施	実施	◎	苗の提供を受け、学校で育てた春日ぼうぶらを使用した給食を通して、生産者と小学生の交流給食会を実施等	継続実施
農業体験学習の開催	農商工連携推進課 各区役所農業振興課	農業体験をしてみたい小学校やグループの相談に乗り、受入れ農家や関係機関との連絡調整や企画・運営を支援。	農業体験参加者数	農業体験参加者数	1,000人	参加者数 875人	1,062人	農業体験 49人	見直し	見直し	見直し		本事業の対象者となる各小中学校、幼稚園、保育園等においては教育の一環として農業体験が展開されているため、一般市民を対象とした農業体験を実施する。一般市民の農業理解と消費拡大を図る観点から、収穫・調理体験型の食農塾への事業転換を図っている。	一般市民の農業理解と消費拡大を推進する観点から収穫・調理体験の事業展開を行う。
すこやか交流広場管理運営事業	健康福祉政策課	子ども農園の貸付と、多目的広場の管理、運営。植え付け祭、収穫祭等、イベントを開催し世代間交流を促進。樹木の管理、農園の自主管理を推進する。	農園利用率	%	(H20) 100%	74%	84%	92%	82%	100%	82%	△	ボランティアによる農業指導 環境整備のため、除草を年度内に3回	継続実施
学校農園等での栽培活動	指導課	学校農園や休耕田、プランター等を活用し、子どもたちが栽培・収穫等を体験する。	実施校数 ★成果指標	%	小学校 78/80 98% 中学校 20/37 54.1%	81/81 100% 37/38 97.4%	81/81 100% 37/38 97.4%	100% 100%	100% 100%	100% 100%	調査中		全校に需用費を配当し、各学校の実態に応じて農業体験や栽培活動、緑化活動等が推進できるようにした。また、校外農地を使つての体験に取り組む学校に対して、農地借用の謝礼金、及び指導者に対する指導料を支払っている。	時数確保の点から考えると、授業中に取り組むことは難しいが、始業前の活動や児童会・生徒会での取組など、各学校で体験の場の確保に努めている。また、校外農地についても、借用、管理の面から学校の負担も大きいと考える。今後も、校内農地(花壇等)の積極的活用、農業体験の推進など、各学校の実情に応じた取組がなされるように、啓発に努めていきたい。

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定 ◎○ △×	H24度業務内容等	事業検証
市民と水産業との交流促進	水産振興センター	市民と漁業者との交流を通じて、本市水産業の紹介、漁業体験活動などを推進する	-	-	-	小学生等参加者数 68名	小学生等参加者数 51名	小学生等参加者数 90名	小学生等参加者数 88名	-	小学生等参加者数 61名	◎	・小学生(杉上小学5年生)の干潟体験学習(9月)及び出前教室(2月)の実施 ・各漁協等が行う体験学習会への協力及び支援 ・水産物フェアの開催	課題として ・受入れ団体の確保 ・参加者の安全確保
市民農園 (平成24年度からファミリー農園)	各区役所 農業振興課	昭和58年の開設以来、平成23年4月現在13農園(881区画)が開園している。今後は農園開園者自らが管理運営する農園への移行を完了し、市としては、開園支援を実施していく。	利用区画数 (H24年より利用人数から区画数へ変更)	区画	1,242人	-	1,274人	集計中	1,828人 (13農園)	1,900人 (13農園)	885区画	○	継続実施 ※H24より農園主管理となったため、各農園の利用者数の把握が困難となったため、指標を利用区画数と変更する。	各ファミリー農園の開園者が自ら農園の管理運営を行い、農園を管理する各区役所が開園・運営及び広報支援を行う。

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称	関係団体	H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
「食と農・くらしと環境ワーキンググループ」における活動	エコパートナーくまもと (環境パートナーシップくまもと市民会議)	行政及び関係団体と協力し、環境保全及び安全安心な食について啓発活動を行った。	5/19、20 『くまもと環境フェア2012』(熊本市動植物園) 内容:地下水を育む白川中流域の農産物紹介、アサリ、シジミの養殖と、それによる海水の浄化システム展示 11/25 『あいぼーと文化祭』 内容:地下水を育む白川中流域の農産物を使った食の販売 シジミによる水質浄化モデルの展示 1/26 エコキッズサミット2012 内容:クイズに答えて白川中流域の農産物をプレゼント。	継続実施
あぐりキッズスクール	JA熊本市	農作業を通して、農業や食の大切さを学ぶため、市内19の小学校から72人の児童があぐりキッズに入校し年8回の講座を受講した。	5/19:開校式、野菜選果場見学、ミニトマト収穫 6/23:ナス収穫体験、田植え 7/21:マイ箸づくり 9/15:野菜づくり、調理実習みそ作り 10/20:収穫体験(稲刈り、芋ほり) 11/24:農業祭参加、野菜の収穫体験、餅つき 12/15:みかん収穫体験、柑橘選果場見学 2/16:ハター作り、感想文発表、閉校式	継続実施

IV くまもの自然環境と食文化に根ざした食育の推進

2) 地産地消の促進

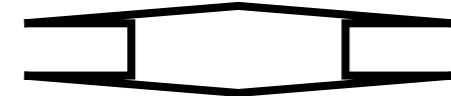
【成果指標】

	H19	H20	H22	H24	H24(目標)
(19) 「地産地消」を認知している市民の割合	57.9%	63.4%	68.2%	69.9%	65%
(20) 学校給食における地元産物を使用する割合	28品目	35品目	39品目	39品目	43品目

【取り組むべき施策】

- ①「くまもとらしさ」を生かした地産地消の推進
- ②学校給食や飲食店等への地元産物のPRと活用促進

【具体的な取り組み(行政)】



取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定 ◎○ △×	H24度業務内容等	事業検証
「ひご野菜」の認知度向上及び普及拡大	農業政策課 流通消費対策室	熊本に因むストーリーが展開できる野菜等を掘り起こし、観光と連携した地産地消の展開を図る。	指定品目	指定品目	15品目	15品目	15品目	15品目	同左	各種イベントにより、認知度向上や消費拡大事業を実施	15品目	○	農産物フェアや各イベント等では、ひご野菜の認知度向上及び消費拡大のため、パネル展示やひご野菜の販売を行った。	継続実施
食農体験事業	農商工連携推進課	各区の特性を活かした収穫や調理など体験型の事業展開を通じて、食と農の理解促進を図る。	参加人数	人		231	136	203	129	150	53	○	9月29日 西区方野地区 なし収穫、調理体験 参加者 34名 12月1日 南区飽田地区 スティックセニョール収穫 参加者 19名 本年度より各区役所で事業を展開する事となった。区制となって初年度であるためか、地域農業者との連携が薄く開催回数は少なかったが、実施した回は大変好評で有意義であった。 次年度以降は全ての区で開催していく予	継続実施
本市水産物のブランド化の推進	農商工連携推進課	ハマグリブランド化を異業種と連携し、PRを図る	ハマグリ の 認知度	%	24%	24%	35%	—	—	(H25) 50%	—	—	—	—
保育所給食における地産地消の推進	保育幼稚園課	食材は可能な限り、熊本市産、県内産、九州産、国内産を使用している。	—	—	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	食材は可能な限り、熊本市産、県内産、九州産、国内産を使用	継続実施
学校栄養職員等の生産地視察	健康教育課	給食関係者が学校給食使用農産物の生産地を視察し食育に活用する。	—	—	継続実施	継続実施	16箇所の視察	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	◎	食育の日(ひごまるデー)の献立に使用する農産物を中心に産地を視察し児童生徒の食育資料としてまとめ、各学校へ配付	継続実施

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等				
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定 ◎○ △×	H24度業務内容等	事業検証	
「農とぴあ」地域の活動支援	農業政策課 各区役所 農業振興課	一定の地域を「農とぴあ」として指定し、その地域における農業者等の主体的活動を支援し、地産地消の拠点づくりを推進する。	「農とぴあ」指定地域数	地域	3地域	4地域	4地域	5地域	6地域	6地域	6地域	6地域	◎	「西里地域」「中島地域」「河内地域」「飽田地域」「守富地域」「山本地域」の6地域を地産地消の拠点として指定。各地域で農業体験交流等が実施された。	本事業は市内をほぼ一巡したこともあり、事業内容を抜本的に見直す必要がある。
学校給食における地元産物の利用	健康教育課	「食育の日」の取り組みとして市産品の献立によるメニューを実施し、児童・生徒に指導するための資料集を作成し、全校に配付している。	実施品目数 ★成果指標	品目	(H18) 28品目	H19年度 実績35品目	35品目	41品目	39品目	43品目	44品目	44品目	○	毎月19日を「ひごまるデー」とし、市産品の献立によるメニューを実施。	継続実施
農産品直売所支援	農業政策課	市内直売所で組織する「熊本市農産物直売所連絡協議会」の活動を通じ、周年栽培への取り組みや合同販売会等の実施により、直売所間のネットワーク強化や販売促進を図る。	直売所設置箇所数	ヶ所	10	-	14	14	14箇所 合同販売会等の開催	15	16	16	○	平成23年度、熊本市農産物直売所連絡協議会ひごまる会を設立。平成24年度は、ひごまる会を中心とした、販売会を実施した。	継続実施

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称	関係団体	H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
小・中学校及び福祉施設等へ熊本市産ノリを提供	熊本市漁業後継者クラブ	市内の小・中学校に熊本市産の焼海苔を提供し、本市産海苔のPRを行った。	平成24年6月25日、27日、29日 平成24年10月3日 平成25年2月1日、4日	継続実施

IV くまもとの自然環境と食文化に根ざした食育の推進

3) くまもとの食文化の伝承

【成果指標】

	H19	H20	H22	H24	H24(目標)
(21) 家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合	63.9%	51.3%	54.9%	49.2%	70%

【取り組むべき施策】

- ① 伝統料理や郷土料理等に関する情報提供の促進
- ② 新たな食文化の発端・開発
- ③ 関係団体との連携による食文化伝承に関わる活動の推進

【具体的な取り組み(行政)】

取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等							進捗状況等				
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定 ◎○ △×	H24度業務内容等	事業検証		
郷土料理の実施とそれに伴う啓発活動	健康教育課	食文化の伝承及び啓発を目的に、学校給食献立への郷土料理導入を月1回実施	実施割合	%	小学校 100% 中学校 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	◎	食育の日(ひごまるデー)の献立や各地の味を取り入れる「味の旅」献立として毎月郷土料理を実施した。	継続実施	
保育園児と地域住民との交流会	保育幼稚園課	地域の住民との交流会にて、団子汁会や芋煮会を行う等、郷土食の継承に努めている。	実施割合	%	公立 95% 私立 61%	—	83.0%	83.0%	公立 56.5%	100%	70%	43.5%	—	○	食中毒注意報発令中のため実施しなかったり、地域の老人会解散や区画整備等で地域住民の減少があり、地域とのかかわりを模索中の園があった	継続実施
郷土料理等を掲載した給食レシピ集の発行	健康教育課	郷土料理も含めた学校給食のレシピ集を作成し、学校へ配布し、親子料理教室等での活用や家庭啓発を行う。	—	—	—	—	作成配布	作成のみ	作成配布	作成配布	作成配布	◎	栄養教諭等の協力のもとレシピ集を作成し、全学校に配付	継続実施		
郷土料理啓発活動	健康づくり推進課	熊本の郷土料理・祭事料理を食のホームページに掲載・発信する。	—	—	—	—	—	情報収集中	郷土料理のレシピ掲載20品	—	20品掲載中	○	20品掲載中	継続実施		

IV くまとの自然環境と食文化に根ざした食育の推進

4) 食育を通じた環境保全

【取り組むべき施策】

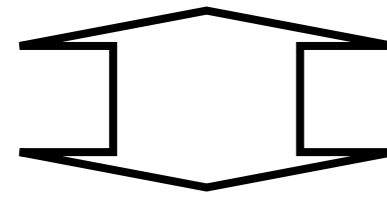
	H19(直近値)	H20	H22	H24	H24(目標)
(22) 市民1人1日あたりのごみ排出量	1215g(H18) *	1,113g	977g	976g	956g
(23) ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけている市民の割合	67.0%	68.8%	69.1%	69.9%	75.0%
(24) バイオマスを知っている市民の割合	23.0%	21.5%	26.2%	34.4%	30.0%
(25) 熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合	65.7%	64.0%	80.8%	80.8%	85.0%

\* 平成19年度実績 1,163g

【取り組むべき施策】

- ① 食を通じた環境保全に関する情報提供  
② 環境保全体験を通じた食育活動の推進

【具体的な取り組み(行政)】



取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定 ◎○ △×	H24度業務内容等	事業検証
環境にやさしい店の推進	環境政策課 (温暖化対策室)	ごみ減量リサイクルの推進に積極的に取り組む小売店を環境にやさしい店「よかエコショップ」として認定し広報していく。	認定店舗数	店舗	145店舗	146店舗	145店舗	148	149	190店舗	149店舗	○	省エネルギー・省資源の推進や地産地消の推奨など、幅広く環境保全についての取組みを進める小売店等を環境にやさしい店「よかエコショップ」として認定するとともに、本市の地球温暖化対策に関する総合的なウェブページ(平成25年1月開設)への掲載等、市民への広報・啓発を行いグリーンコンシューマーの育成を図った。	今後も環境にやさしい店「よかエコショップ」認定店舗数増とグリーンコンシューマーの育成拡大を目指す。
水質監視	水保全課	地下水等に関する水質監視	監視率	%	97%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	◎	水質汚濁防止法に基づく地下水の水質の常時監視	より効果的な監視戸の選定が必要
広域水保全対策	水保全課	農業体験や交流ツアー、森林ボランティア活動などを通じて地下水かん養域と地域との交流や連携を深めることで熊本地域の地下水の長期的な保全を保つ。	参加人数	人	382人	348人	644人	393人	364人	450人	357人	○	・小学5年生を対象に、白川中流域水田を活用した田植え(6月)稲刈り(10月)を開催した。 ・森林ボランティア育成のため講座を4回開催した	継続実施
小学校への副読本配布	ごみ減量推進課	小学4年生が社会科で初めてごみ問題を学習する際の副読本として、本市のごみ事情をやさしく解説した「ごみとリサイクル」を作成し、市内の小学校に配布している。	配布数	人	6,637人	6,667人	6,669人	6,932人	8,500人	8,500人	8,100人	○	小学4年生が社会科で初めてごみ問題を学習する際の副読本として、本市のごみ事情をやさしく解説した「ごみとリサイクル」を作成し、市内の小学校に配布した。	継続実施



取り組み名称	関係部署名	業務内容	評価		評価指標等						進捗状況等			
			評価指数	単位	H19度実績	H20度実績	H21度実績	H22実績	H23実績	H24度目標	H24実績	判定◎○△×	H24度業務内容等	事業検証
堆肥化容器、電気式生ごみ処理機助成事業	ごみ減量推進課	家庭でのごみの減量及びリサイクルに資する、堆肥化容器、電気式生ごみ処理機の購入に対する助成を行う。	堆肥化容器助成金申請件数	堆肥化容器助成件数(年間) 電気式生ごみ処理機助成数(年間)	417基 344基	693基 420基	817基 908基	258基 334基	128基 163基	700基 1,000基	137基 862基	○	家庭でのごみの減量及びリサイクルを促進するため、堆肥化容器、電気式生ごみ処理機の購入に対する助成を行った。	H24から助成率と助成上限額を引き上げた結果、申請数大きく伸びた。今後も広報啓発に努めていく。
ごみ減量化・リサイクル推進ポスターコンクール	ごみ減量推進課	小中学生を対象に、ごみ減量・リサイクルの推進を題材にしたポスターコンクールを行い、その優秀作品を表彰している。	応募作品数	点	1,153	1,122	1,130	1,016	ポスター1,010 標語134	ポスター1,200 標語1,200	1,161	○	市内の小中学生を対象に、ごみ減量・リサイクル推進の必要性についての関心を高めてもらうため、ごみの減量やリサイクルに関するものを題材としたポスターコンクールを実施し、生ごみ減量イベントで表彰を行った。	標語コンクールについては、選考の難さ、応募数の少なからずH24から中止した。
家庭用生ごみ処理機の小学校設置 ＜平成21年度新規＞	ごみ減量推進課	小学校に家庭用生ごみ処理機を設置し、ごみ減量・リサイクル推進の体験学習を行う。	設置校数	校	—	—	54	75	なし	93	なし	◎	H22で設置完了した。	事業完了
生ごみ分別収集モデル調査事業 ＜平成21年度新規＞	ごみ減量推進課	モデル地区(2地区)の協力により生ごみを分別収集し、堆肥化を行う。	—	—	—	—	738戸	750戸	—	—	—	◎	H22で事業終了した。	事業完了
環境保全に関する市民啓発	環境総合センター	環境保全に関する学習会を開催し、市民啓発を行う。	—	—	—	3641人	5,610人	4,907人	5897人	—	7,857人	◎	環境学習、ホームページ等で啓発を行った。	継続実施
環境にやさしい農業の推進	農業政策課	エコファーマ、有作くん等、環境にやさしい農家の戸数	戸数	戸	1,019戸	1,221戸	1,814戸	2,228戸	1823戸 03.06現在 (※H23からはエコファーマ、有作くんに取り組む農家の実人数)	1,850戸	1,891戸	◎	エコファーマ認定・更新の推進 有作くんの認証促進	継続実施

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称	関係団体	H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
「食と農・くらしと環境ワーキンググループ」 における活動	エコパートナーくまもと (環境パートナーシップくまもと市 民会議)	行政及び関係団体と協力し、環境保全及び安全安心な食について啓発活動を行った。	5/19、20 『くまもと環境フェア2012』(熊本市動 植物園) 内容:地下水を育む白川中流域の農 産物紹介、アサリ、シジミの養殖と、 それによる海水の浄化システム展示 11/25 『あいぽーと文化祭』 内容:地下水を育む白川中流域の農 産物を使った食の販売 シジミによる 水質浄化モデルの展示 1/26 エコキッズサミット2012 内容:クイズに答えて白川中流域の 農産物をプレゼント。	継続実施

V 食育を通じた食の安全・安心の確保(共通)

1)食の安全性や栄養等に関する理解の促進  
 ~安心して食生活を送るための食育~

【具体的な取り組み(関係団体)】

名称	関係団体	H24度取り組み内容	H24度実績	今後の予定
食の安全安心確保に関する研修会	熊本市農産物直販所連絡協議会	協議会の総会において、熊本県農政事務所に出席いただき、くまもとグリーン農業について説明を受け、会員の意識向上を図った。	平成24年7月6日 市役所8階会議室 参加団体団体 9団体	継続実施